

がん社会 を診る

中川 恵一

日本人の平均寿命(2014年)は男性が80・50歳で世界第3位、女性は86・83歳で3年連続世界第1位でした。平均寿命とは、その年に生まれた赤ちゃんが何歳まで生きるかの期待値です。

平均寿命を押し下げている病気のトップは、男女ともがんです。仮にがんによる死亡がゼロになった場合、男性は3・80歳、女性でも2・94歳、平均寿命が延びると推定されています。もしそうなれば、男性は85歳近く、女性は90歳近くまで生きることになります。

日本が世界トップ級の長寿国を達成できたのは、さまざまな理由からです。国民皆保険制度による医療の充実、世界で最も低いレベルにある新生児や乳児の死亡率、和食に代表されるバランスのよい食事や体を動かす生活習慣、貧富の差が少ない社会のあり方

職場の患者 高齢化で増加

などが挙げられます。勤勉で労働意欲が高く、高齢になっても社会参加率が高い点も重要だといわれます。

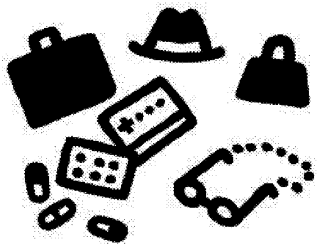
実際、65〜69歳の就業率は男性で5割、女性で3割に上ります。また、15歳以上の就業者総数に占める65歳以上の高齢者の割合は10%を超えています。これは他の先進国とかなり異なります。欧米の主要国はいずれも数%と低い値にとどまっています。いかに日本の高齢者が働いているかが分かります。

日本の社会は若者が減る一方で、それを補う移民もほとんど受け入れていません。高齢者が働かなければ、経済成長や社会保険制度を維持できないと思います。がんは細胞の老化といえる病気ですの

で、高齢者が仕事を続けられれば、職場にがん患者が増えることとなります。まさに「がん社会」の到来です。日本人は確かに長寿となりましたが、平均寿命と並んで大事なのは、健康問題で生活が制限されない「健康寿命」を延ばすことです。13年の健康寿命は男性71・19歳、女性74・21歳で男女とも世界トップですが、平均寿命との差は男性で約9年、女性で約12年あります。01年と比べて、この差は広がっています。

男性が65歳まで働いて退職すると、身体的にセカンドライフを満喫できる期間は6年程度です。残念ながら、思ったほど長くありません。

次回ががんを防ぎ、健康寿命を延ばす秘訣をお伝えします。(東京大学病院准教授)



イラスト・中村 久美